

灯



4月は新年度でいつも新鮮な印象だが、完成したばかりの新校舎でのスタートとなり、殊更その思いが強い。理事長室も新しくなったので気分一新、仕事に取り組んでいる。新しい部屋にはまだ不慣れで移動した荷物も未整理のものが多い。毎日の探し物の連続である。

新旧理事長室から



草野 義輔

道植人」が掛かり、揮毫は後学至吾とある。肥後出身、咸宜園で学び後に総理大臣となった清浦奎吉だ。どっしりとした筆跡であるが、「後学」は常に学ぶ姿勢で、という意であろうか。右手に目をやる。「以和為貴」があった。聖徳太子の有名な言葉を書いたのは朝倉 毎人で、日本の口タシと称された彫刻家朝倉義夫のいとこ。実業家であり書家であり学者であり、自在に漢詩を作られた方だ。

旧校舎の理事長室には扁額が三つ飾ってあり、毎日眺めて自らの戒めとしていた。

正面には「桃李自芳」の1文字。文部大臣荒木万寿夫と揮毫がある。素人目にもなかなか繊細に見える。左を見ると「耕事な筆跡である。

近年は和室や床の間のない家が多くなり、掛け軸や扁額は人気がないという。新理事長室も洋式のしつらえなので三つの扁額をどうするか、いまだに思案中である。貴重なもので味わいの深いものばかり。何とかしなくちゃ。

(昭和学園高校理事長・日田市)